

回想法レクリエーションによる能動的会話の増加

Increase of Frequency of the Active Conversation through the Reminiscence Recreation

中芝 亜寿香*・加藤 玲子**

Asuka Nakashiba , Reiko Kato

キーワード：回想法，レクリエーション，老年期の発達課題，自我の統合

1. はじめに

回想法は、1968年アメリカの精神科医 R.N. バトラーが、高齢者の回想は、自然に起こる心理的過程であり、過去からの未解決の課題を再度とらえ直すことも導く積極的役割をもつと提唱したことに始まる。バトラー以来、回想法は欧米を中心に高齢者の保健・医療・福祉に関わる多職種の人が展開を担っており、日本においても、特に認知症高齢者への心理・社会的アプローチの一つとして活用されてきている。

回想法の長所として挙げられるのは、①自らの経験、情景を回想することは生き生きとした情感をよみがえらせ心理面でよい刺激となる、②特に自分の輝かしかった時の過去を語る時は誇らしく、自尊心を満足させ、精神的至福のひとつが持てる、③人生の苦難を乗り越えてきたことへの自負心がよみがえり自分の人生への肯定感情を持つことができる、④自分一人で生きてきたのではなく、多くの人の支えによって生きてこれたことへの感謝の気持ちが持てる、⑤自分の人生を見つめ直す、整理再統合する、⑥数人で行う場合、共通の話題を見つけることができ、相互理解を深め、親近感が生まれる、等

である。

さらに、認知症高齢者への回想法の効果としては、①言葉数が増える、②情緒が安定する、③表情が豊かになる、④意欲が出る、⑤回想内容が広がり深まる、⑥行動異常（徘徊など）がその時間は減る可能性がある、⑦他人への関心が高まり、交流が可能となる、が挙げられる。

回想を促す材料としては、本・国語読本・新聞・写真・ポスター・地図・映画・歌詞（童謡・流行歌・軍歌）・おもちゃ等、様々なものがある。

介護実習Ⅳで担当させて頂いた介護老人福祉施設入所の H さんは、疾病により心身状態の低下が見られ、2ヵ月前まではレクリエーションに参加していたが、意欲低下のため参加を見合わせている状態であった。1日の約3分の2をベッド上で過ごされる H さんに何らかのレクリエーションを行う事で、生活に楽しみを見出せないだろうか考えたところ、6つの理由（本文中に記載）から、回想法レクリエーションが適切であると考え実施した。

本研究では、この回想法レクリエーションが H さんにとってどんな意味を持つものであった

* 社会福祉法人 白鳩会

** 鹿児島女子短期大学

か、深く追求することを目的とする。

2. 研究事例の対象について

2-1. 事例の概要

①氏名

H様 (82歳, 女性, 要介護5)

②認知症高齢者の日常生活自立度

Ⅲa (日中を中心として日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々みられ, 介護を必要とする)

③障害高齢者の日常生活自立度

B2 (屋内での生活は何らかの介助を要し, 日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ。介助により車いすに移乗する)

④現病歴

レビー小体型認知症, 骨粗鬆症, 高血圧症

⑤入所における本人の要望

調子は良いですよ。時々ふらふらしたりしますけどね。編み物とか刺繍がしたいと思いましたが頭が痛くなったりしますから出来ません。三日坊主になるでしょう。

⑥生活歴

K町に3人兄弟の次女として出生。K学校卒業後、洋裁店に勤める(洋裁は内職も含め57年間)。昭和30年にH氏と結婚。K市にて2人の子供に恵まれ、内職をしながら主婦業をしていた。

2-2. 現在の状況

Hさんは、レビー小体型認知症により平成22年6月より介護老人福祉施設に入所。現在、疾病によるパーキンソン様症状により動作緩慢、筋固縮、仮面様顔貌、手足には振戦が見られる。全身において、筋力低下があり、関節可動域が狭い。その為、移動には車椅子を使用し、寝返り・起き上がり・衣服の着脱は全介助で行っている。

コミュニケーションでは短期記憶障害・見当識障害のため話がかみあわない事はあるものの、自分の意思伝達、相手の話す内容の理解が出来る。また、日常会話で自己主張が強くない事が観察される。

レビー小体型認知症の特徴として、日内変動日と日差変動が激しい事が挙げられるが、Hさんの場合、特に仮面様顔貌・振戦・見当識障害に変動が見られる。

離床は食事前後1時間程度で、1日の約3分の2をベッド上で過ごされる状態。臥床時は、寝ているか、テレビを聴いているか、天井を見つめている事がほとんどである。

2ヵ月前まではレクリエーションに参加していたが、意欲低下のため現在参加を見合わせている。職員の方からの情報によると、団体のレクリエーションは好まれない傾向が見られるとの事である。

3. 研究の方法

3-1. この事例における回想法実施の理由

①Hさんは臥床時間が長く、その際天井を見つめている時間がある。

②Hさんは団体のレクリエーションは好まれない傾向が見られるという職員の方からの情報がある。個別に実施できるレクリエーションが好ましい。

③Hさんの要望には、「編み物とか刺繍がしたい」とあり、レクリエーションへの参加は見合わせているものの、何らかの余暇時間の活用への意欲と考えられる。

④Hさんは、洋裁を57年間(内職も含め)していた生活歴を持ち、「編み物とか刺繍がしたい」という要望から、最も適した余暇時間の活用は洋裁であると考えられる。しかし、パーキンソン様症状の動作緩慢・筋固縮・振戦が見ら

れ、全身の関節可動域も狭い事から、現状で洋裁を試みる事はかえってHさんの心身の負担になりかねない。

⑤回想法レクリエーションは、居室で臥位状態での実施が可能。離床時間が少ないHさんにとって最も負担が少なく、会話内容・声量・実施時間を調節し、Hさんの心身状態に合わせた実施が可能である。

⑥Hさんは日常の会話で自己主張が強くない。コミュニケーションを図り、Hさんの心の声を聴く必要があると考えられる。

以上6つの理由により、Hさんに回想法レクリエーションが必要と考えた。

3-2. 回想を促す材料の検討

音楽と脳波の関係を調べた研究ではα波の増強が確認されている。このような音楽のリラクゼーション効果は、心身のストレスを解消し、自己を見つめるきっかけを与える。また、音楽の生理的影響としては、生体の恒常性（ホメオスターシス）を高める効果や、リラクゼーションに導く効果が報告されており、脈拍・呼吸・血圧の安定、筋緊張の緩和が期待できる。

パーキンソン様症状という神経症状を持つHさんにとって、音楽をリズムをとったり身体を動かしたりして楽しむことは難しいが、この生理的・心理的なリラクゼーション効果は有効であると考えられる。

今回の事例ではリラクゼーション効果も期待し、身体に負担の少ない歌詞、つまり音楽を用いる事にした。Hさんが幼少期・学童期・成人期に聞いていたなじみの音楽をアセスメントし、その音楽を回想法レクリエーション時に使用することにした。

3-3. 受動的会話と能動的会話

この論文において、筆者はレクリエーション中に行った会話の中で、Hさんが能動的に行っ

た会話が特に重要と考えた。その為、質問に対しての返答・相手の会話に対する受け答えを受動的会話、それ以前の内容とは異なる話題の発生・話題の広がりや深まりをもたらす会話を能動的会話と定義した。

3-4. なじみの音楽を用いた回想法のレクリエーション導入と実施方法・評価方法の決定

(1) 導入

まず、回想を促す材料として音楽が適切であるかを調査する為、「居室で音楽でも聞いてみませんか」と伺ってみた。Hさんからは、「今は身体がきついから、何をやっても疲れるんです。テレビを見るだけでも疲れます」との返答であった。

しかし、後日、ご本人になじみの音楽についてアセスメントを行ったところ、「は一るよ来い は一やく来い あ一るき初めたみいちゃんがー」と自ら歌われた。そこで次の日『春よ来い』の曲を準備した。Hさんが臥床時天井を見つめている時に居室に入って声かけし、コミュニケーションを図った後、「今日は、Hさんが歌っていた「春よ来い」の曲を持って来ました。一緒に聴いてみませんか？」と提案した所、「はい、聴いてみます」との返答。曲をかけると、率先して「は一るよ来い は一やく来い」と歌われ、歌詞がわからない部分に関して「この辺は、なんて言ってるのか分かりませんね」とおっしゃった。

音楽鑑賞後、こちらから回想を促すより前に、昨日の夢にお父様が出てこられた事、裁縫を女学校入学以前からしていた事の話を受動的にし、下さった。

(2) 回想法レクリエーション実施方法の決定

導入結果より、回想を促す材料としてなじみの音楽は有効と考えられる。よって、Hさんへの回想法レクリエーション実施方法を次の通り

に決定した。①回想を促す材料としてHさんのなじみの音楽を使用する、②臥床時、天井を見つめている時に声かけし、同意を得て実施する、③Hさんの身体状況を考慮し、居室にて臥床状態で実施する、④音楽を鑑賞する前にコミュニケーションを図り、雰囲気作りを行う、⑤一回に何曲も鑑賞するのは、Hさんの心身状況から望ましくないと考えられるため一回二曲までとする、⑥導入の様子からHさんは歌唱が可能である。歌詞カードを準備し一緒に歌える環境を整える、⑦曲終了後に、回想法によるコミュニケーションを図る、⑧Hさんの身体的負担にならないよう、全ての実施を30分程度とする。

以上を決定し実施することとした。

(3) 評価方法

なじみの音楽を鑑賞もしくは歌唱する前のコミュニケーション（以後、音楽前コミュと略す）と、なじみの音楽を鑑賞もしくは歌唱した後の回想法によるコミュニケーション（以後、音楽後コミュと略す）をボイスレコーダーに録音し、実施後に受動的会話と能動的会話の回数を数える。その結果から、音楽前コミュ、音楽後コミュにおける受動的会話と能動的会話の絶対的割合及び相対的割合の調査・評価を行う。

4. 結果

【1日目】

○音楽前コミュ時における能動的会話の一部抜粋（能動的会話には下線）

私：今日身体の調子はいかがですか？

Hさん：もう、やっぱり同じですね

私：どんな感じですか？

Hさん：なんかね苦しいのよ、息のしかたがね。
熱はないです、67分でした。それにしてもちょっとありますよね。

私：そうですね、6度7分ですか？

Hさん：6度7分…36度7分ね。

私：ご気分のほうはいかがですか？

Hさん：よくないです。

私：よくないですか？

Hさん：…。

私：今日の朝食は美味しかったですか？

Hさん：もう…並ですね。あんま、美味しくもないし、また食べないとね、昼までは持たないと思って…頑張って食べましたけど…。

実施曲	1曲目	春よ来い
	2曲目	お正月

○音楽後コミュ時における能動的会話の一部抜粋（能動的会話には下線）

私：今日は歌ってみてどうでしたか？

Hさん：やっぱり懐かしいですよ

私：懐かしいですか？

Hさん：はい。昔は着物でしたからね。必ず下駄と着物とね…着て、遊ぶもんでした。毬をつけてね。

私：なんか思い出しましたか？思い出を。

Hさん：はい。叔母のうちのね下駄屋でしたの。

私：あ、そうなんですか。

Hさん：はい。お正月が来るとみんな家族の下駄をね、準備して、そして鼻緒をたててね。おばさんが膝でよくして、外へ出て持ってくるもんでしたよ、それが楽しみでしたよ。赤い鼻緒をつけてね。

私：へ～。

Hさん：そして、お正月はお煮しめとか数の子とかあんなのがいろいろありますから。まだ、昔は頼むっちゃうことがなかったんですよ、お料理をね。

私：今、頼みますもんね。

H さん：今もう頼みますがね，食堂屋さんにね。
その頃は，自分の家で作っていましたよ，…はい。

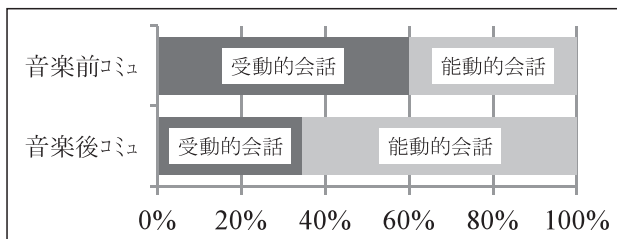
私：すごい時間かけて，作ってたんですか？

H さん：そうです。昆布巻きなんかもね，私は昆布巻きが一番好きでした。お豆とかね。「おば」と言っって，鯨ですよ，あれを「酢ぬた」で食べたりしていましたよ。「おば」は好きでした，「おば」と言っってね…。

表 1 1 日目の会話数

	受動的会話数	能動的会話数	会話時間(秒)
音楽前コミュ	27	18	423
音楽後コミュ	18	34	978

図 1 1 日目の会話数



【2 日目】

○音楽前コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)
(医師が出す薬について)

H さん：で，もう飲まないといいましたの，薬は…飲みませんって。(医師に) いや飲みなさいって言われてね…。

私：そうなんですか。

H さん：薬だけは飲みなさいって言われて…。

私：また，飲まないと震えたりするのが悪くならないですか？

H さん：もう，いいですよもう《いらいらされ

ている様子》。

実施曲	1 曲目	みかんの花咲く丘
	2 曲目	背くらべ

○音楽後コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

H さん：私は，父がね，何も芸も何も持たんとかって思ったらね。

私：はい。

H さん：何ですか…，どじょうすくいって言う，何かざるを持って歌を踊るのがあるでしょうが。

私：はい。

H さん：あれを，何かのお祝いの時にね，踊っただですよ。びっくりしましたが。

私：へ～。

H さん：へ～，こんな芸を持っていたもんじゃと思っってね《笑顔が見られる》。

私：はははは《一緒に笑う》。

H さん：面白いですもん，あの芸…踊りもね。男の人が着物を着て，ちょっとおしりをつむじ上げて，ざるを持って，タオルをば首に…頭にかぶっってね，どじょうすくいの真似をするの。見たことないですか？

私：こう…こんなするやつですか？こう…，こうするやつですか？《どじょうすくいの真似をする》

H さん：はあ，タオルを…。

私：タオルを巻いて，はいはいはい。

H さん：日本タオルって言うんですか，あれを，タオルを巻いて。着物の裾をつむじ上げて。《笑顔が見られる》。

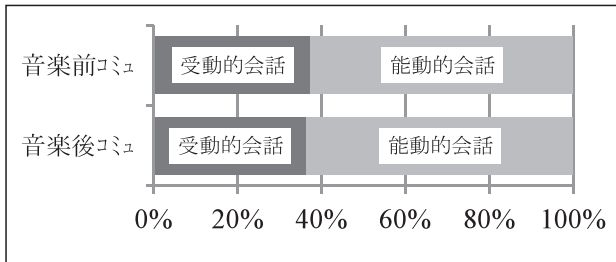
私：こう，上げてですよ。 (見たこと) あります，あります《一緒に笑う》。

H さん：よく踊れますよね。

表2 2日目の会話

	受動的 会話数	能動的 会話数	会話時間 (秒)
音楽前コミュ	9	15	283
音楽後コミュ	35	61	917

図2 2日目の会話数



【3日目】

○音楽前コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

Hさん：(レビー小体型認知症の症状が現れた)
一番最初は目が見えなくなってきてねえ、
神経が悪いんでしょう。もう、D病院
でレントゲン(脳のMRIの事)の結果
が悪いって言われました、一番悪いっ
て。

私：…《頷きながら傾聴する》

Hさん：太っていたのがご飯が通らなくてね、
10キロ痩せましたよ。そしたら、娘が
心配してね…。したもんですから、お
医者さんに行って一生懸命食べました
の。

実施曲	1曲目	七つの子
	2曲目	雀の学校

○音楽後コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

私：そこで、あの…洋裁とかをされたんですか？

Hさん：いや、高校…洋裁学校には私行かなかつたわけですよ。

私：あ～、もう自分で…(洋裁の勉強を)した
んですね。

Hさん：ええ、もう学校には行かないで。友達
の家が洋服店でしたの。昔は流行った
んですもんね、洋服を縫う店が、もの
すごく流行ったんですよ。

私：すごいですね。

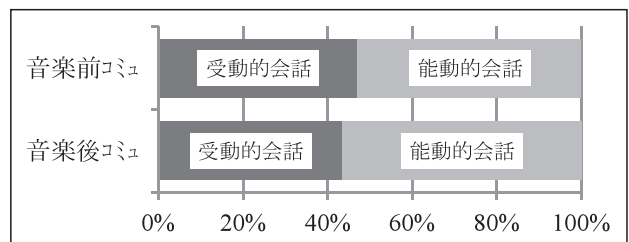
Hさん：そしたら、友達のお母さんが洋裁店を
して、お父さんが紳士服、お母さんが
婦人服とか子供服を縫って、それはそ
れは忙しかったの。そして、私は泊り
込みで稽古傍らそうとうしたわけす
の、泊り込んでね。

私：すごいですね。

表3 3日目の会話

	受動的 会話数	能動的 会話数	会話時間 (秒)
音楽前コミュ	8	9	332
音楽後コミュ	23	30	641

図3 3日目の会話数



【4日目】

○音楽前コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

(Hさんより鼻水が出そうとの訴えがある)

私：ご気分悪かったらすぐ言って下さいね

Hさん：いえ、熱がなければ気分は悪くないで
すよ。

私：熱がなくても、気分が悪い時は…あります

もんね？

Hさん：《笑顔が見られる》ここが、ぞくぞくぞーぞしますの。

私：…風邪の引き始めかな…？

Hさん：いいえ、もう風邪は前から引いていましたけど、熱はないし、鼻水も出ないし、どうもないのに、どうかあるんですよね。

実施曲	1 曲目	うさぎとかめ
	2 曲目	雨ふり

○音楽後コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

私：(娘さんの) 結婚式は泣かれました？

Hさん：(自分の結婚式の事と間違われ) いいえ、もう近所だしね…

私：あ、近所の方ですか？あ、いえ娘さんの結婚式です。

Hさん：あ、近所じゃなくて…泣かなかったですよ、平気でしたが、涙もろい子ですけどね、泣かんかったですよ。

私：Hさんも泣かなかったですか？

Hさん：私も…。人が多くてね、人数が多かったですよ～。

私：あ～、そうなんだ…。

Hさん：…でも、嫁さんの(…聞き取れない…)同じく、父親は悲しかっただろうと思いますよね、泣くわけいかんしね。

私：ご主人は悲しそうにされてましたか？

Hさん：帰ってからね、機嫌が悪かったですよ。そこにあった、なんかふろしき包みをあれへ蹴飛ばしてましたよ、足で《笑顔が観られる》。

私：ははははは《一緒に笑う》。

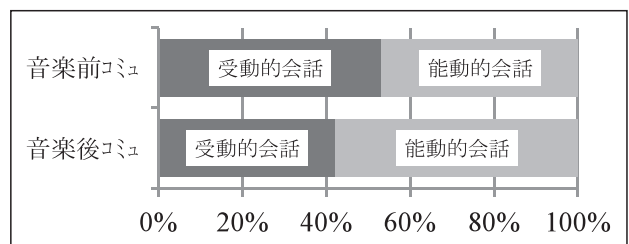
Hさん：あ～、機嫌が悪いわ、と思ってね。私 はもうね、息子をもらったもんですか

ら喜んでいましたら、やっぱ父親は機嫌が悪かったですよ。

表 4 4 日目の会話

	受動的会話数	能動的会話数	会話時間(秒)
音楽前コミュ	26	23	720
音楽後コミュ	29	40	963

図 4 4 日目の会話数



【5 日目】

○音楽前コミュ時における能動的会話の一部抜粋
(能動的会話には下線)

Hさん：自分でしないから悪くなったって 言われましたよ。

私：えっ？どういう事ですか？

Hさん：出来る事は自分でせんといかんと言われましたよ、出来ないのに…。

私：自分でしないから病気が悪くなるって言われたってということですか？

Hさん：…はい…出来ないのにね…。

私：いやいや、Hさんはちゃんと出来る事は自分でしてらっしゃると思いますよ。

Hさん：はい…。

私：ちゃんと、出来る事はしてらっしゃると思いますよ。ご飯も、ちゃんと食べてらっしゃいますしね。

Hさん：…何をですか？

私：ご飯を、スプーンでゆっくりでもちゃんと(ご自分で)食べますしね。

Hさん：はい。トイレもね、流すのも（自分で）流すようになったんですよ。そして…紙もあれするのを使うようにね。そして、Hさん何もかも出くったんね～って言われましたよ。《笑顔が見られる》

私：ははは。《一緒に笑う》

Hさん：出来る事は自分でちゃんとせんないかんとおもうてね、していますけど。

私：う～ん《頷く》。ちゃんと、（自分で）していると思います。

実施曲	1曲目	夕やけこやけ
	2曲目	七つの子

○音楽後コミュ時における能動的会話の一部抜粋（能動的会話には下線）

私：Hさんはお節料理とか作ってたんですか。

Hさん：お節料理？はい作ってます。母と二人で作っていましたよ。

私：何を作っていたんですか？

Hさん：もう…かまぼことか、揚げ物、つけあげとか（…聞き取れない…）竹の子とかお煮付けとかね。昆布巻きは作っていましたね。…あれにね、鯖の中身を入れて…。

私：昆布の？

Hさん：昆布の…鯖が一番美味しいですよ。

私：あ、そうなんですか。

Hさん：他の刺身の…がありますでしょ、赤身なんか、あんなのよりか鯖ですね。

私：あ、そうなんですね。へ～。

Hさん：鯖が美味しくてね、鯖をば入れよったですよ。

私：ちゃんとお重に詰めるんですか？

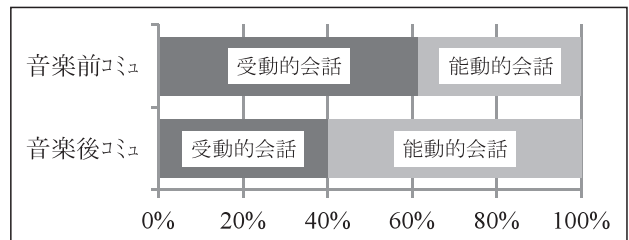
Hさん：お重に詰めたり、今タッパーが蓋があるでしょ。タッパーが大きいからね、

タッパーに入れて、タッパーを出して、タッパーから取って食べていましたけどね。

表5 5日目の会話

	受動的会話数	能動的会話数	会話時間(秒)
音楽前コミュ	9	15	283
音楽後コミュ	35	61	917

図5 5日目の会話数



5. 考察

1～5の表と図より、全5回の実施全てにおいて、なじみの音楽を鑑賞もしくは歌唱する前のコミュニケーション（音楽前コミュ）と比べ、なじみの音楽を鑑賞もしくは歌唱した後の、回想を取り入れたコミュニケーション（音楽後コミュ）での能動的会話の絶対的割合と相対的割合が増加している事が解る。

会話時間も全実施において音楽後コミュが音楽前コミュに比べ長くなっている。会話の内容については、音楽前コミュ抜粋部を見ると【1日目】現在の心身状態が良好でない事、朝食は美味しく感じないが頑張って食べた事、【2日目】薬をもう飲まないといった話、【3日目】病気を発症した頃の話、【4日目】現在の体調について、【5日目】自分で出来る事をしていないから病気が悪くなると言われた事、と全て現状・病気に関する内容である。

それに対し、音楽後コミュでは【1日目】昔の

お正月の様子、叔母が下駄屋だった話、【2日目】お父様のどじょうすくいの話、【3日目】勤務していた洋裁店の話、【4日目】娘の結婚式でご主人の機嫌が悪かった話、【5日目】以前作っていたお節料理の話、と昔の思い出に関する内容であり回想が促進されている事が解る。

以上の結果から、音楽を用いた回想法レクリエーションにより回想が促進され、能動的会話の増加・会話時間の増加・会話内容の変化が起きたと云える。

では、これらの変化は何を意味しているだろうか。Hさんは、日常の会話で自己主張が強くない方である。Hさんは現在介護老人福祉施設に入所しているが、施設は共同生活であり、支援される側という受け身の立場からも自己主張の場面は少なくなりがちである。そのようなHさんに対し音楽を用いた回想法レクリエーションの実施は、能動的会話の増加・会話時間の増加・会話内容の変化をもたらした。これは、回想法により昔の思い出が復活し、他人への会話意欲が増加したからであると考えられる。

さらに、会話意欲が増加し、昔の思い出を語る場には、その思い出を肯定して傾聴する相手が存在する。他人にその思い出を肯定される体験が出来ているのである。

音楽前コミュの抜粋部では、客観的にご自身の病状を観察している会話がありながらも、【2日目】「もういいですよもう」といらいらされている様子や【3日目】「もう、D病院でレントゲン（脳のMRIの事）の結果が悪かって言われました、一番悪かって」、【5日目】「出来る事は自分でせんといかんと言われましたよ、出来ないのに…」と、病気に対する苛立ちや葛藤、悲しみが垣間見られる。こういった状態のHさんにとって、他人に自らの思い出を肯定される体験は、自分の人生への肯定感情を深

める事に繋がっていると云えるであろう。

野村は、「エリクソンは人生には八つの発達段階があり、それぞれの段階で解決すべき心理課題があると述べ、老年期の発達課題は「自我の統合」だと考えました。エリクソンら[Erikson et al.1986]は、自我の統合を達成するには「これまでの経験を思い出して再検討しようとする意欲」が必要だと述べました。そのため、回想は老年期の発達課題を達成する具体的な手段だと考えられています。」¹⁾と述べている。

『これまでの経験を思い出して再検討しようとする意欲』は、この事例においての昔の思い出を他人に語る意欲と密接な関係があり、他人に自らの思い出を肯定される体験は『再検討』に関しての肯定感情の深まりに繋がっていると考えられる。

筆者は、今回の事例においては、Hさんが回想法レクリエーションにより『これまでの経験を思い出して再検討しようとする意欲』が生じ、自我の統合が進んだと結論づけるには至らないと考えている。この試みにより、Hさんの自分の人生に対する意識に変化が生じたかどうかまでは、証明できないからである。しかし、後日実習指導者よりHさんがこのレクリエーションに対し「いろんな話が出来て、とても楽しかった。」と感想を述べていたと聞いた。Hさんにとって、昔の思い出を他人に語り、肯定される体験が満足感に繋がったのだろうと考えられる。

また、この回想法レクリエーションを通じて私自身Hさんの心理状態への理解が変化した。当初、私はHさんがご自身の病気に対して受容が出来ており、病状を客観的に捉えられる方であると理解していたのである。しかし、コミュニケーションを重ねるにつれ、病気に対する苛立ちや葛藤、悲しみが垣間見られ、受容しよう

と努力して客観視しているものの完全に受容出来ていないHさんの複雑な心理状態が明らかになってきた。

介護職は、利用者の生活と密接な関わりを持っている。適切な生活支援を行なうには心理状態の把握が重要であるが、心理状態は声にならない面も多く、理解が難しい。心理的な理解を進めるために、能動的会話を増加させる回想法レクリエーションにより自我の統合を促進させるには、更なる意図的なコミュニケーションが必要である、とこの研究より学ぶことが出来た。

謝辞

本事例研究について助言頂きました実習施設である介護老人福祉施設の皆さまと利用者のHさんに、御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 野村信威：『高齢者の「生きる場」を求めて』p 66, ゆまに書房, 2006

参考文献

- 1) 近藤勲：『高齢者の心理』ナカニシヤ出版, 2010
- 2) 野村豊子：『Q&A でわかる回想法ハンドブック』中央法規出版, 2011
- 3) 佐藤眞一：『老いところのケア』ミネルヴァ書房, 2010
- 4) 北澤彩, 近藤康夫：『高齢者介護の療法ガイド』ヒューマン・ヘルスケア・システム, 2004
- 5) 社会福祉士養成講座編集委員会：『社会福祉士養成講座11心理学』中央法規出版, 1999

(2012年12月7日 受理)